

事業名：聚楽学園

生涯学習課 生涯学習係

政策	05 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実								
施策	02 生涯学習の充実								
基本事業	03 生涯学習機会の充実								
開始年度	—	終了年度	—	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果	
対象（誰、何に対して事業を行うのか）	
蒼樹大学を卒業した市民	
手段（事務事業の内容、やり方）	
<ul style="list-style-type: none"> ・蒼樹大学等を卒業した学生による自主運営の8年制。卒業後の聴講生制度あり。 ・5月～3月まで毎月1回定例学習会を開催。希望者は選択別に専攻講座を月1回受講 ・野外研修（日帰り）、研修旅行（1泊2日）、学園祭などの特別行事の開催 ・年度末に記録文集を発行 ・「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき、聚楽学園に、対象となる事業に対し、予算の範囲内で補助金を交付する。 	
意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）	
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者ひとり一人が自立と連帯の精神に満ちた豊かで活力のある生活の維持を図るとともに、異世代間の交流、仲間づくりを促進し、習得した知識や技術経験を活かした地域社会への参画を促進する。 	

指標・事業費の推移						
区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	蒼樹大学を卒業した67歳以上の市民数	人	56	48	45	—
対象指標2						
活動指標1	講座等開催数	回	63	54	54	—
活動指標2						
成果指標1	学生数	人	406	415	432	—
成果指標2	出席率	%	67	69	71	—
事業費(A)		千円	677	756	770	770
正職員人件費(B)		千円	2,007	2,004	1,953	1,956
総事業費(A+B)		千円	2,684	2,760	2,723	2,726

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	・聚楽学園への補助金の交付	・聚楽学園への補助 770千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
事業を取り巻く環境変化	
超高齢化時代の到来とともに、高齢者の生きがいがづくりと学習成果を生かす地域社会活動への参画がより一層求められている。	

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）

(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

妥当である	理由 根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢人口は増加しており、高齢者の中にも健康で活躍する事のできる人材は多い。人材資源の活用幅を広げられる効果があり妥当である。
妥当性が低い		

(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい	理由 根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幅広い分野の学習ニーズに対応しており、定例学習会や選択幅の広い専攻講座など、多彩な学習機会を提供している。
貢献度ふつう		
貢献度小さい		
基礎的事務事業		

(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

上がっている	理由 根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役員等を中心とした自主的な活動が出来つつある。 ・ 高齢者の自己実現が図られ、様々な形の仲間づくりやコミュニケーションの場が広がっている。 ・ 次のステップとして、学習成果を生かし、地域社会に還元する方向付けが必要となる。
どちらかといえば上がっている		
上がらない		

(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大	理由 根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容の見直しで成果が向上する余地はある。
成果向上余地 中		
成果向上余地 小・なし		

(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありませんか？

ある	理由 根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・ コスト自体の削減は学園活動の停滞につながるため難しい。しかしながら、基本的には自立活動の団体であるため、全額補助金化し、積極的に自立を促している。 ・ 学園の運営費用として参加者が年会費を負担している。
なし		